

地方暦師・地方陰陽師史料の使い方

吉川家文書から考える

小田真裕

How to Analyze Historical Documents of Local Calendar Craftsmen and Local Omnyoji in the Early Modern Period:
A Case Study of the Yoshikawa Family in Nara

ODA Masahiro

はじめに

- ① 吉川家文書の使われ方
- ② 吉川家文書を使う
おわりに

【論文要旨】

近世の暦および陰陽道に関する資料群のうち、吉川家文書は、地方の暦師および陰陽師の活動がわかる稀有な資料群である。特に、暦や土御門家が発給した文書だけでなく、奈良で作成された文書資料や、吉川家の蔵書（書籍史料）が質量ともに充実しているため、研究利用する者の視角により、新しい情報を得ることができると注目される。しかし、先行研究では、吉川家文書を研究者の問題関心に基づいて使用してはきたが、資料群の全体像への関心は希薄であった。そこで、本稿では、先行研究が吉川家文書のどの資（史）料をどのように利用してきたのかまとめ、吉川家文書を用いた研究の現状と今後の課題を明確化した。さらに、日本近世史の最新の動向を踏まえた吉川家文書分析の具体例として、近年研究が進んでいる書物・出版研究および蔵書研究の方法論を援用し、吉川家文書の中でも注目されてきた史料である「暦掛り記録」を分析した。「暦掛り記録」の記述を断片的に取り上げるのではなく、史料の

全体を踏まえた分析により、先行研究で注目されてこなかった、陰陽町の暦師（陰陽師）たちのイレギュラーな事象への対応や、記録管理への意識について考察した。

【キーワード】 地方暦師、地方陰陽師、吉川家文書、頒暦、史料論